１．　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	４０７０４０１６２７		
法人名	社会福祉法人　鷹羽会		
事業所名	グループホーム　花みずき		
所在地	福岡県北九州市小倉北区篠崎一丁目９番６号 （電　話）　０９３－５９２－３６０５		
自己評価作成日	平成　23　年　6　月　10　日	評価結果確定日	平成　23　年　8　月　9　日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.fsw.or.jp/kohyo/top.html

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人　福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町３－１－７
訪問調査日	平成　23　年　6　月　30　日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

同じ敷地内に同一法人が運営するデイサービスセンターと軽費老人ホームがあります。年中行事の共同開催や多様なクラブ活動への自由な参加等を通じて、ホームの外の方々との交流の機会があり、生活の幅が広がります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

小高い丘に立つ事業所で近くには伝統ある神社があり、大きな鳥居と神社の森の木立に囲まれている。母体は社会福祉法人で軽費老人ホーム・デイサービス・グループホームを運営し、同法人は長い歴史を持ち、地域に根づいている。当事業所は併設施設と同じ敷地内にあるが、別棟で１階にはデイサービスセンター、２階が本事業所である。独自の地域密着型の理念を作成し、「毎日の生活に笑顔が生まれるようなサービス」を提供できるよう、職員は利用者に寄り添った介護を目指している。法人が経営する保育園などの他事業所との交流も盛んである。クラブ活動や法人独自の納涼祭りには、たくさんの住民が参加して地域交流も盛んに行われている。

自己評価および外部評価結果

平成23年8月9日

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ　理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者支援や職員の勤務姿勢の基盤となる理念と方針を毎朝の朝礼や会議時に唱和して内容の理解と確認に努めている。	独自の理念が作られ、それに基づいた介護サービスが実践されている。「入居者お一人おひとりが住みなれた地域で心豊かに暮らせるよう暖かなサービスの提供に努めてまいります」との理念を毎日朝礼で確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年間を通して、事業所の行事にお招きしたり、近隣の神社への清掃の奉仕に伺うこと等を通じて地域交流に努めている。	自治会には入ってないが、事業所の行事は案内している。神社の清掃活動や市民センターの敬老会、保育園の運動会、芋ほりなどに参加している。近くの中学校の体験学習の受け入れを毎年行っている。近隣のアパート入居者の会議に場所を提供するなど地域交流は日常的に行われている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座を開催して学習を深めている。地域交流会等で地域の方々へ活かせるように努めたいと考えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーからの意見を基に神社のお祭りのお神輿がホームにも来て頂けるようになり、地域交流の機会が増えた。	利用者・家族・地域包括支援センター職員・自治会長や民生委員などが参加して２ヵ月に一度開催している。会議の内容はサービスの現状報告や行事報告、行事の案内、外部評価の報告などである。以前、委員からの要請で「祭りのお神輿」が事業所に立ち寄ってもらえるようになるなど、意見がサービス向上に繋がっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のメンバーである地域包括支援センターの職員を通じて市の担当者との繋がりがあり、またグループホーム協議会の研修に市の担当者との意見交換を行う機会がある。	グループホーム協会に入っており、研修時に行政の担当者と情報交換をしている。介護保険法改正などの情報を貰ったり、実情報告などもしている。また、事業所で開催する地域交流会の「認知症サポーター養成講座」の出前講演の依頼や助言を貰うなど協力関係が築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に「身体拘束を行わないケア」の為の研修を開いて理解に努めている。	身体拘束に関するマニュアルがある。日中、玄関は施錠しておらず、職員の見守りを徹底し、鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。外部研修に参加し、参加できなかった職員には伝達研修を行っている。内部研修では法人内の研修委員会が年間計画に必ず取り入れて実施している。また、現在、安全確保を理由に家族からの希望でベッドから自分で降りられないようにサイドレールを取り付けている利用者がいる。日々の記録をとり、毎月再検討会を開いている。	身体拘束により起こる悪循環を理解し、ご本人の視点に立ったアセスメントを行い、安全・安楽に過ごせるための日々のケアの工夫を行って欲しい。また、さらに身体拘束廃止に向けての理解を深めるための取り組みを行って欲しい。

自己評価および外部評価結果

平成23年8月9日

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	外部の研修へ参加し、施設内研修を開催して虐待に繋がらないためのケアに努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部や内部の研修にて権利擁護に関する理解を深め、入居の際にはご家族へ紹介し、必要である方には活用できるように支援している。	利用開始時、管理者が家族と利用者に制度の説明をしている。北九州市が開催する権利擁護に関する外部研修に積極的に受講し、受講できなかった職員には伝達研修している。テキストや研修記録、報告書などもある。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書や重要事項について説明行い、疑問や質問に答えながら納得した上でサインを頂いている。同じく、改定時に説明を行い、納得の上サインを頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護サービス計画書を作成する際に利用者や家族の希望を確認し、その希望を踏まえて計画書を作成し、了承頂いている。また、定期的にアンケートを取り、意見や要望を確認してそれらを運営に反映させるようにしている。	家族会はない。年に１度家族にアンケートをとっている。また、地域交流会を開催し、家族と交流する機会を設けている。行事への参加時や来所時にできるだけ意見を聞くようにしている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議、スタッフ会議や全職員合同の会議の中で意見交換の場があり、反映させられるように努めている。	朝礼や終礼、月１回のグループホーム会議などで職員が意見を出す機会はある。今回の自己評価は評価項目をコピーしたものを配布し、朝礼や全体会議で職員の意見を管理者が集約したものである。また、育児期の職員の夜勤を免除するため、夜勤専用の職員を雇用するなど職員の勤務体制を配慮している。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年の昇給や毎月の勤務表に職員の希望する休みを取り入れ、また有給休暇をとれるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮してい生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職業として選択し、やる気を持って勤められる方を採用している。また、各自の能力を生かせるよう適材適所に努めている。	職員採用に関しては性別や年齢等の制約は特にない。職員が資格試験を取得する場合は、事業所としては協力し、個人が能力を発揮できるように支援をしている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	代表者は民生委員を務めており、職員は外部、施設内研修において人権教育を受ける機会がある。	外部研修は毎年北九州市が行っている研修会に参加し、資料やテキストを基に勉強会やグループホーム会議で伝達研修している。障害者や高齢者への言葉遣いの問題、接遇の仕方など法人内の研修委員会が年間通して研修を企画・実施する等人権・啓発活動に積極的に取り組んでいる。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は外部、施設内研修において資質向上につながる研修を受けることができる。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県のグループホーム協議会に所属し、定期的に開催される研修を受けることや協議会の中で他のグループホームの職員とのやり取りができている。		
【Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や利用開始時には、本人や家族の希望や不安について伺い、それらを解決できるよう関係者と協議して改善している。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時や利用開始時において、家族の困っていることや不安について伺い、安心して利用できるように担当者間で相談して解決に努めている。		

自己評価および外部評価結果

平成23年8月9日

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用するにあたっての経緯を伺う中で、まず必要としている支援を明確化し、必要なサービス利用へ繋げられるように支援に努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までに経験のある調理や手芸、昔からの慣わしなど、利用者から教えて頂けるような機会がある。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	好きだった場所や以前住んでいた場所へのドライブや訪問ができるように努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問は就寝時間前までは可能として、訪問し易いように努めている。友人が訪問する方もおられる。	馴染みの人々との交流も年々少なくなっている。現在、友達や近所に住んでいた人が訪ねてくるのは一人だけになったが、そのつながりを大切にしている。希望があれば、元住んでいた場所を訪ねたりすることもある。家族と食事に出る利用者もいて、面会時間の融通を利かせるなど柔軟な対応をとって支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の環境が和やかで支えあえるような状況になるように職員は橋渡しに努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も連絡を取り、必要があれば相談に応じられるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用開始時や日々のやり取り、サービス計画書作成時に本人の意向を確認してサービス計画書に反映させている。	利用者の表情や態度でそれぞれの希望や意向を把握している。変化があったり、思いや意向の伝達が困難な場合は、アセスメントを見直したり、家族に聞いたりしながら把握に努めている。利用者の思いや意向をケアプランに反映させ、本人本位の生活ができるように検討している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時のアセスメントにて状況を把握して、利用開始後もその人らしさが継続できるように努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの体力やその日の体調に合わせた過ごし方に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス計画書を見直す時期には本人、家族、関係者と意見やアイデアを出し合ってサービス計画書を作成している。	介護計画は３カ月毎に見直している。介護計画を作成する前にアセスメントの再チェックを行い、家族や利用者の希望・主治医の意見などを聞いてグループホーム会議で見直し前の計画を評価し、次の計画にいかしている。管理者は計画作成後、利用者及び家族に説明をし、署名・捺印をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は、昼夜において記録して状況の把握に努め、計画書に活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望やその人らしく生活して頂けるよう併設施設とも協力体制ができている。		

自己評価および外部評価結果

平成23年8月9日

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の希望する生活を家族と共に支援できるように努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向によりかかりつけ医を選択して頂き、納得した医療を受けられている。	利用者が希望するかかりつけ医に受診している。家族が受診に付き添っているが、骨折などで長期に通院するときには家族の希望により職員が通院の支援をしている。家族と事業所が連絡を取り合って情報を共有し、適切な医療支援ができている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の心身の状態において気になる点については医療従事者へ相談している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には病院担当者と連絡を取り、現況の把握に努めて、今後の準備体制を整えている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状況の変化に伴い、家族や関係者と協議して今後の方針を立てている。	終末期の指針があり、職員全員が理解しているが、明文化はしていない。管理者は家族や利用者に利用開始時に説明をしている。状況に応じて、その都度、家族・利用者の意向を大切にし、かかりつけ医やケア関係者と連携をとりながら方針を決め、納得のいく支援をしている。	早い時期から重度化した時の迎え方や対応の仕方について、本人・家族及び関係者等の意思確認書を作成するなど明文化に努めて欲しい。
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部や施設内研修において定期的に訓練を受けている。		

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消火や避難誘導等の防災訓練を行っており、事業所の職員だけでなく、地域住民にも協力を呼びかけている。また、非常食や備品についても準備をしている。	併設施設と合同で３回、事業所独自で３回、年に計６回避難訓練をしている。そのうち１、２回は夜間を想定した訓練を行い、利用者の安全確保に努めている。今年は消防署の協力をお願いしている。地域の方にも呼びかけ参加を得ている。非常用食料及び備品も準備している。スプリンクラーおよび緊急通報装置を設置している。	
【Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的に人権やプライバシーの保護について研修し、遵守できるように努めている。	事業所には「言葉遣いについて」のマニュアルがある。職員は内部研修でプライバシーに関する研修をし、言葉遣いや対応について学習をしている。また、個人情報を他の家族の前で話したりしないなど日常的にその意識の向上に努めている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が選択できる場面では、本人の思いや希望を汲み取り、尊重している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々のやり取りの中で一人ひとりが望んでいることを確認し、強制ではない過ごし方を送ることができるように努めている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用開始時には、好みの物が身に付けられるように好まれる物をお持ち頂いている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が希望するメニューを作る日を設け、準備や調理、後片付けを通じて、利用者一人ひとりが役割を持ち、できることに参加している。	月曜日から土曜日までは昼食と夕食は法人からの給食を利用している。事業所では毎日の朝食と日曜日の食事を利用者と一緒に調理している。月に一度、利用者の好きな献立を立てて皆で食べている。普段、職員は弁当と事業所で作る一品を同じテーブルで食している。	

自己評価および外部評価結果

平成23年8月9日

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状況に応じて食事形態や量を整えて提供し、その摂取量を記録して状態の把握に努めている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの時間を持ち、口腔内の清潔保持を支援している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に排泄介助を行うことで失禁の予防に努め、一人ではトイレに行けない方には排泄のサインを確認した時に随時排泄介助を行っている。	排便・排尿表を用いて、時間を見ながらトイレ誘導をしている。また、職員は一人ひとりの利用者の排泄のサインや習慣を把握しており、それぞれの利用者に応じて、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は栄養士が立てた献立に基づき、併設施設の厨房で調理したり、事業所で職員や利用者が調理をして提供し、便秘予防に取り組んでいる。また、日課に体操や散歩を組み入れている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	基本的には２日に一度の入浴であるが、毎日入浴できるように準備している。	入浴日は決めていない。毎日入浴の準備しているので、希望すれば毎日でも入浴することができる。入浴を拒否される利用者には季節の入浴剤を使って楽しめるように工夫している。また、利用者の好きな歌を唄って入浴を促したり、その人に合った方法で入浴支援を行っている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、体操や散歩等の活動的な時間と休息の時間を織り交ぜながら過ごして頂けるように努めているが、一人ひとりの体調を考慮して無理強いぜず、夜の安眠へ繋がるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法や用量を守り、服薬時には誤薬予防のため職員２名で確認して服用の援助をしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	併設の事業所との協力で多様なクラブやレクリエーションの提供ができることから、利用者が好きなことをできるよう支援に努めている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日課の中に散歩の時間を設けて外出できるように支援し、遠方への外出は定期的に計画している。ご家族の理解により、ご家族付き添いで希望に沿った外出ができている方もいる。	利用者の健康状態や希望に応じて、散歩は天気が良い日は毎日行っている。外食は年に３回程、買物は月１回程行っている。法人開園記念日には出前のにぎり寿司店を開いたり、夏にはバーベキュー大会を行っている。また、週１回移動売店やパン屋が店を出してくれるので、利用者は買い物を楽しむこともできている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者によって少額のお金を所持していて、訪問売店や外出の機会に欲しいものを購入している。また、お金を所持していない方も希望があれば預かり金からお小遣いとして使うことができるようにご家族から了解を得ている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いなどが出せるように支援し、希望があれば家族への電話を繋いでいる。携帯電話を所持している利用者もおられる。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量や照明に配慮している。また、花を飾り、気候が良い時には、天窓を開放して空気の流れを整え、快適さに配慮している。	居間には利用者と職員が共同で作った利用者の顔が花のようになっている木が飾られていた。また、職員が作ったパッチワークの七夕飾りや暖簾などが数多く飾られて家庭的な雰囲気がある。また、包装紙で作った紫陽花の花の貼り絵やその時期の行事などが飾られ、季節感を感じさせる工夫をしている。	

自己評価および外部評価結果

平成23年8月9日

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースの椅子で過ごされたり、テレビの前のソファーで一人の時間が持てるようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から愛用していた物をお持ち頂いて、自分の好まれる居室作りをして頂いている。	居室には利用者の使い慣れたタンス・ラジカセ・テレビ・家族の写真・馴染みの人形などが持ち込まれていた。また、レクリエーションで作った造花の花や書がある。家族と連絡を取るために携帯電話を持っている利用者もいる。馴染みの物をそばに置くことで安心して生活ができるよう配慮している。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全フロアはバリアフリーで、皆が集まる食堂ホールを中心に全居室が見渡せ、一人ひとりの居室の出入り口が確認できる。廊下・居室・浴室は手摺りを設置している。		

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの成果（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V　サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	―	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。（参考項目：25,26,27）		①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の２／３くらいの
			○	③利用者の１／３くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	―	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。（参考項目：20,40）		①毎日ある
				②数日に１回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
60	―	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。（参考項目：40）		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
			○	③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
61	―	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている（参考項目：38,39）		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
			○	③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
62	―	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：51）		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
			○	③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
63	―	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。（参考項目：32,33）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
64	―	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。（参考項目：30）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの成果（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V　サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	―	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 （参考項目：9,10,21）		①ほぼ全ての家族と
			○	②家族の２／３くらいと
				③家族の１／３くらいと
				④ほとんどできていない
66	―	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2,22）		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に１回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	―	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		①大いに増えている
			○	②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	―	職員は、活き活きと働けている。 （参考項目：11,12）		①ほぼ全ての職員が
			○	②職員の２／３くらいが
				③職員の１／３くらいが
				④ほとんどいない
69	―	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
70	―	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が
			○	②家族等の２／３くらいが
				③家族等の１／３くらいが
				④ほとんどいない